世界が注目する日本発企業倒産予知モデル

法政大学提供
作成日　2016年2月15日
更新日

研究者氏名	所属機関	関連キーワード（複数可）
しら た　よし こ 白田　佳子	法政大学イノベーションマネージメント研究センター	企業倒産、与信管理、適切な企業間取引 経済の安定化

主な研究テーマ

・企業倒産予知モデルの開発
（非上場企業をも含めた企業の倒産を予測し、社会が倒産によって被る社外的損失を最小限にとどめる。「予知して未然に防ぐ」ことを主眼とする）

主な採択課題

- 基盤研究(B) 平成18年度～20年度（配分総額：8,930千円）
  課題名「破綻企業の事業再生可能性評価に関する実証研究」
- 基盤研究(B) 平成21年度～24年度（配分総額：13,260千円）
  課題名「企業倒産予知モデルによる非上場企業格付け手法の開発」

平成9年から平成26年まで上記の他さらに4件の「企業倒産予知」にかかわる課題が基盤研究（C)で採択されている

① 科研費による研究成果

[研究概要]

平成9年より我が国の「企業倒産」に関わる研究を継続して実施しており、中小企業などの非上場企業にも適用可能なオリジナルの企業倒産予知モデルを公表した。なお、研究のほとんどは科研費による成果である。

[先行研究と比べた本研究の特徴]

企業倒産にかかわる研究は国内では限定的であるが、海外ではいくつかの研究が見られる。しかしこれらの研究は、各国の上場企業を対象とした内容に限られ、本研究のように非上場企業をも含めた企業倒産の実態を分析した研究は見られない。

[研究の特徴]

科学研究費により、膨大な我が国の非上場企業財務データを入手する機会を得て、継続的にこれらのデータを分析し、経済環境の異なる時代ごとに適用可能な倒産予知モデルを公表している。特に、①バブル経済崩壊時の企業倒産実態分析、②失われた10年（20年）における企業倒産傾向の分析、③バブル経済誇張期における企業倒産と以降の企業倒産企業実態との相違分析、④低金利時代（低成長時代）の企業倒産実態の解明、など実態経済に即した研究成果を公表し続けている。

[成果の社会的な評価：社会での応用]

本研究で開発されたSAFモデル、SAF2002モデルは、多数の研究論文に引用されるだけでなく、格付け機関として著名な、JCR（日本格付研究所）などの内部検証用に活用されており、かつ日経NEEDsの投資指標としても採用された。

なお、社会科学モデルはビジネス特許にならないことから、これらの商用については無償にて利用されている。

② 当初予想していなかった意外な展開

①基本的には我が国企業の倒産を予知することを目的にとした研究であるから、本研究成果が海外の事象に適用可能であるかは一切検証していない。しかし、当該研究成果はResearchgateサイト(世界中の研究論文を相互に共有するサイト）において、世界中で1000件以上の閲覧数を記録し、現在でも毎週10件から20件の閲覧が記録され続けている。日本人による社会科学系の研究が、当該サイトでこれだけの数閲覧される事例は少なく海外からのダウンロード数が抜きに出て多いことから、世界中の同様の研究者にとって注目をされている研究であることは間違いない。

②近年投資にかかわる研究にも多数引用されている。特にファイナンス分野で著名なOhlsonモデルと本研究成果であるSAF2002 モデル（Shirata Model)を比較した論文が、市場がバブル傾向にある中東で近年多く発表されている。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

企業倒産は非上場企業が98%を占める。近年我が国の企業倒産は低水準にあるが、さらに本モデルが定着することで企業も自らの状況を的確に把握し、事前に手立てを打つ事が可能となる事で、さらに倒産が減少することが期待される。汎用的な倒産予知モデル構築には数千件から数万件のデータが必要なことから、今後も膨大なデータを基礎とする本研究が国内はもとより海外からも注目され続けることは間違いない。日本発の本研究成果によるモデルが今以上にグローバルに利用されるようになることが期待される。